平成１９年１０月２７日（土）

東海学院大学での居宅介護支援事業部会の様子をお伝えします

「であいらんど」介護支援専門員　柴崎　章子

全体の座卓会議の様子。机と椅子が学校らしくて、なつかしいようなとても新鮮な気持ちになります。

先生のお話を聴く出席者の皆様。窓の外はにぎやかですが、ここでは静かな時間がながれています。

以下、発言順に先生をご紹介します

今回の交流は「地域資源としての大学」という観点がテーマでした。

総合福祉学科　**阿部俊彦先生**から、公開講座・出張講座についてご説明いただきました。

阿部先生は精神保健福祉援助，家族，医療，アイデンティについて研究しておられます。日本保健医療社会学会で阿部先生の「阪神淡路大震災後の遺児ケアの問題について」という研究が注目されています。 …

岡本香（かおり）先生より、「地域の人が自由に使える図書館」としての東海学院大学図書館をご紹介いただきました。詳しくは大学ホームページ（http://www.tokaigakuin-u.ac.jp）

岡本先生は、社会福祉士資格取得のための学生の実習指導を担当される一方、音楽演奏グループ、「アンサンブル・ピエロ」の一員としてボランティア活動もしておられます。研究分野は、心理学で、専門は「対人コミュニケーションの心理」です。

介護する人、される人には「頑張る」人が多いという話題から、「なぜ日本人は頑張るのですか」という質問が会場から出ました。

歴史人類学の**天沼香**（あまぬま　かおる）**先生**から日本人の「頑張り」は、日本が古代から他国の文明を学び取り入れる周縁国としての位置にあったこと、とりわけ亜熱帯原産であるイネを温帯のこの地方で育てるために日夜努力する、2000 年以上前からの稲作文化の中で培われてきたものだという、スケールの大きなご説明を戴きました。　　詳しくは、「頑張りの構造―日本人の行動原理」（吉川弘文　館　1987 年 6 月）「日本人はなぜ頑張るのか」（第三書館　2004 年３月）をご覧ください。（大学図書館にあります。）

前学長・医学博士　**大森正英先生**は、ご自身が健康でスリムな理由をユーモアたっぷりにお教えくださいました。

「おなかが空きすぎてから食べると、危機感を感じた体で脂肪が合成されやすくなるので太る」という原理だそうです。ダイエット挫折体験者を含め一同納得しました。

平成１９年１０月２４日（水)の公開講座では、人体を構成する細胞の中には、もともと由来の異なる微生物が住みついて、人体は様々な微生物が共生する生命圏ー小宇宙であること、人間はこれらの助けなしには生きていけないこと、などお話しされたと東海学院大学ホームページに記載されています)

また、「介護職・福祉職のための医学用語辞典」（中央法規出版、2006 年 12 月初版）の編集者として知られています。

「（ケアに関わっていて）よくなって行く人ばかりでなく、だんだん状態が悪くなって行く人に関わることが、とてもむずかしく感じます。」
というケアマネさんの言葉に、温和な笑顔で、
「それこそ、介護に関わる人たちの真骨頂（しんこっちょう）です。よりそいつつ、ありのままの現実を受容できるよう支援することの大切さを認識しましょう。」と語りかけてくださった**鈴木武幸先生**。研究分野は、福祉とマネージメントです。臨床心理士でもあります。

介護保険や介護予防事業では「評果」が行われるため、ケアマネージャーも「機能を向上させなければ！」と力が入ってしまいます。ケアマネージャーが変えることのできないことはそのまま受け入れ、肩の力を抜いて本当に必要な支援が届けられるようになりたいと感じた私たちでした。

林信治先生　は、学園祭の行事でご多忙な中をかけつけてくださいました。
重症心身障害児療育に活躍され、障害福祉制度論などをご研究です。
「障害児・者福祉と高齢者福祉は、異なる面もありますが、根底は同じですね。」と話されました。

社協　若尾さん、介護相談センター飛鳥美谷苑の清水さん、地域包括支援センターカーサ･レスペート成田さん、村上さん。超多忙な包括の日々とその課題を語っていただきました。

右はニチイケアセンター各務原の古林さん、であいらんど　神谷さん。　事業所は違っても悩みは共通。熱心に聴いてくださいました。

居宅介護支援センターさかい　川久保さん･西川さん･中村さん。それぞれに重篤な心身状態のご利用者と悩みながらも前向きに関わりたいと語られました。

つつじ苑介護保険相談センターの石川さん、鵜沼中央クリニック介護保険相談センターの小川さん、コープぎふ福祉サポートセンターの北倉さん、在宅にも若年のご利用者が増えていると、認識が一致しました。

以下は、参加者の感想です。

　ケアマネージャーが関わるのは 40 歳以上で、健者としての生活経験を持つ人がほとんどです。重症心身障害児・者が介護保険の利用者になられるケースはそれほど多くはありません。にもかかわらずケアの根底部分は同じ、という言葉は深遠ですね。制度にふりまわされているケアマネージャーですが、「人間とは何か、生きるとはどういうことか、死ぬとはどういうことか」ということについて先生方と語り合う場をこれからも持ちたいという気持ちになりました。

以上

図-8

社協　若尾さん、介護相談センター飛鳥美谷苑の清水さん、地域包括支援センター　カーサ･レスペート成田さん、村上さん。超多忙な包括の日々とその課題を語っていただきました。

図 9

右はニチイケアセンター各務原の古林さん、であいらんど　神谷さん。　事業所は違っても悩みは共通。熱心に聴いてくださいました。

図 10

デイサービスセンターさかい　川久保さん･西川さん･中村さん。それぞれに重篤な心身状態のご利用者と悩みながらも前向きに関わりたいと語られました。

図 11

地域包括支援センターつつじ苑の石川さん、鵜沼中央クリニック介護保険相談センターの小川さん、コープぎふ福祉サポートセンターの北倉さん、在宅にも若年のご利用者が増えていると、認識が一致しました。

今回の交流会は、であいらんど柴崎がお手伝いしました。ご参加ありがとうございました。

（名称等誤りがありましたらお知らせくださいませ）